

か

も

さ

と

や

ま

つ

う

し

ん

加茂里山通信

平成21年
新年号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
発行責任者・編集長
佐久間眞明

稲やかなお天気でお正月を迎えた平成21年ですが、はてさて加茂の「ごでんがん」達はどんな初夢を見たのでしょうか？

地域医療の理想郷

平成21年。民間出資に奮闘した加茂の診療所に一人の医師が着任した。細身で年若く、頼りなく見えるが、崩壊しつつある地域医療の立て直しに情熱を持つ熱血漢である。医師の持論は「医療は地域活性化の一環」というものだが、過疎・少子高齢化が進む加茂では大きな予算投入は期待できない。しかし「知恵」を絞って「行動」で汗をかくべき地域は良くなっていくはず。

医師が動き始めた。

「地域医療は診療所の中にはできない」と考え、スポンサー病院の本院で長期入院している患者でさえ可能な限りに地域に帰し、その代わり訪問診療を充実させる。往診はもとより、町会長や地域の顔役にもお願いして、積極的に地域へ出て健康懇話会をはじめ。あらゆる機会を通じて直接、地域住民に語りかけるつもりなのだ。

今までは受け身で、サービスは充分受けられて当然と考えてきた住民の意識を変えることで「再生」のきっかけがつかめるはずと考えているからだ。

地域医療が崩壊したのは「病気でもないのに高齢者を病院に入ればなしにする社会的入院と安易な救急利用」だと医師は思っている。

地域医療再生の処方箋は「なんでも病院頼り」の住民意識、自分の健康を医師に丸投げしようとする発想を変えることから始めなければならない。と医師は言う。

描く理想は「病

あつ！それいい加茂

読者の皆様、明けましておめでとうございます。今年も加茂里山通信をこれまで以上に充実させていきたいと考えております。

さてさて、めでたく無事に三が日も終わった今日一月四日の早朝の事、我が家の裏庭で昨年の暮れにうつかり置き忘れたタコを発見しました。

こんな所にタコを置き忘れるなんていよいよ私も歳かとかっかりしつ手に取ろうとしたらいきなり大量の墨を吐き出したんです。

ところがこの液体がどうも墨ではないように見

出た、出たっ！

（おこさん）

気を治すための医療」の枠を超えて、「高齢者がより快適に暮らす」ための地域環境作りである。老人保健施設でのリハビリに加えて、自宅に戻った後の支援である訪問診療や訪問看護、通所リハビリなどのメニューを充実させて、地域住民の暮らしを包括的に支える仕組み作りを進めなければならぬ。それには医師や医療スタッフを支える地域の総合的な「地域力」が不可欠である。医師と地域住民が医療を「限りある資源」なのだという認識を共有しながら、総合病院や福祉・介護と密接に連携をはかっている加茂の理想郷をつくらうとしている。

在宅福祉の充実に向けて、医療と福祉の連携を強化する。地域の建物を活用して、地域のなかについていくのはそう遠いことではない。

＊財政破綻した夕張市の市立病院立て直しに取り組んでいる村上医師の紹介資料をもとにしたフィクションです。現在、村上医師の理想と行動力に惹かれて情熱を燃やす多くのスタッフが次々に集まっているそうす。

高龍神社節分祭

年男・年女のお願い

日本人は、古来季節の移り変わりの節目を大切にしてきました。

中でも、旧年から新年への移り変わりである立春は、最も重視される前日の三日に福を迎える為、豆をまき、邪気を祓うのです。

当社でも、一旦二日の午後六時と七時の二回、氏子の皆様の厄祓いと幸福をお祈りするべく節分祭（豆まき行事）を行います。

只今この豆まきに参加して頂く年男・年女を募集しています。

ご自身の厄祓いは是非当社の豆まきにご参加されてはいかがでしょうか。

今年迎える主な
年男・年女の皆様
大正十四年生まれ
昭和十二年生まれ
昭和二十四年生まれ
昭和三十六年生まれ
昭和四十八年生まれ
昭和六十年生まれ
平成九年生まれ

申込めは電話で（98）0472まで

厄祓いは
地元神社で

市原商工会議所
副会頭 根本 巍
市原商工会議所加茂支部
支部長 征矢 吉之助
役員一同

加茂の里心を愛する仲間たち

国本一心会

正式名称は「こもど一心会」といいます。国本町会の60代から70代のメンバーが主力で最高齢は84歳。地域の環境美化を自分達で出来ることは自分たちでやる」という心意気を活動しています。

これまで通路に水仙を植えたり、休耕田を借りて菖蒲園にしたりという活動を続けてきました。氏神様である浅間神社や町会会館の清掃も活動の一環としています。

また小湊鉄道の沿線に菜の花を咲かせる活動にも最初から参加しており、大久保駅と豊原駅駅受け持っています。春の黄色いじゅうたんを皆さんに見てもらえるのもこの活動の楽しみの一つです。

昨年は県道沿線の整備として長年放置されて荒れていた敷をきれいにしました。延べ100人以上の参加を得て、きれいになった道路脇の姿は活動の大きな成果と思っております。

特に堅苦しい規約もあえて作らず、活動もメンバーの発案で決めるという感じで「楽しく、気楽に参加」が会のスタイルです。誰かが、地域にとって「こうしたらいんじゃない？」と提案して「ヨッシャ、それやろう」という感じで。

活動の後で会員の心づくしの手料理を味わいながら談笑するの大きな楽しみで、その会話の中から次の活動のアイデアが出てきます。

拠点である産直の売り場はこしばら休止していますが、そろそろ再開という話も出ていますので、まだまだやることは湧いてきそうです。

（大泉里山通信員）

農家は産直のハウス

昨年、笠間と益子に行ったときに、岩間インターから笠間に向かう途中で気になる建物がありました。どうにも気になるので帰りに寄ってみました、JAの産直の店でした。しかし、気になったのはその建物で、新しい造りなのに何とも懐かしく、

加茂の里心を愛する仲間たち

国本一心会

正式名称は「こもど一心会」といいます。国本町会の60代から70代のメンバーが主力で最高齢は84歳。地域の環境美化を自分達で出来ることは自分たちでやる」という心意気を活動しています。

これまで通路に水仙を植えたり、休耕田を借りて菖蒲園にしたりという活動を続けてきました。氏神様である浅間神社や町会会館の清掃も活動の一環としています。

また小湊鉄道の沿線に菜の花を咲かせる活動にも最初から参加しており、大久保駅と豊原駅駅受け持っています。春の黄色いじゅうたんを皆さんに見てもらえるのもこの活動の楽しみの一つです。

昨年は県道沿線の整備として長年放置されて荒れていた敷をきれいにしました。延べ100人以上の参加を得て、きれいになった道路脇の姿は活動の大きな成果と思っております。

特に堅苦しい規約もあえて作らず、活動もメンバーの発案で決めるという感じで「楽しく、気楽に参加」が会のスタイルです。誰かが、地域にとって「こうしたらいんじゃない？」と提案して「ヨッシャ、それやろう」という感じで。

活動の後で会員の心づくしの手料理を味わいながら談笑するの大きな楽しみで、その会話の中から次の活動のアイデアが出てきます。

拠点である産直の売り場はこしばら休止していますが、そろそろ再開という話も出ていますので、まだまだやることは湧いてきそうです。

（大泉里山通信員）

白鳥小学校が
文部科学大臣表彰！

昨秋、11月22日付けで白鳥小学校が文部科学大臣表彰を受けました。

それは白鳥小学校が取り組んできた「キャリア教育」という子供達に社会で働く事の意味と楽しさを学ばせながら全人的な発育を支援して行こうとする教育活動が認められたものです。

更にその内容には、地域の自然や人材を活かしながら職場訪問や職業体験なども取り入れ、肌で学んで来る活動も折り込まれていた事も大きな評価になったものと思われています。

実際、私の店にも6年生が職場体験に来てくれて、教わりながら細かい仕事にチャレンジし、自分が考えてきた質問を私達に投げかけ、きちんとデータとしてメモを取っていました。いっちはしゃいいで買物に来る顔とは違うその二連の真剣な態度にはちよっと驚きました。

更にその数日後、訪問してくれた生徒さんから写真入で立派なお礼の手紙が届き、本当に感激しました。

この体験がきつと子供達の将来の糧になって行くことでしょう。

（佐久間里山通信員）

情報提供・取材依頼はお近くの通信員へメールでも受け付けます。

尚、紙面及び記事に関するご意見・お問い合わせは、市原商工会議所 市原市五井中央西1-2-25
TEL0436(22)4305 担当 北まで
Eメールアドレス
kai@aod.ichi-hara.chiba.jp
HPアドレスhttp://www.yo-ro-kadoya.co.jp/kansei-hanbu

次回春号は4月20日発行予定です

加茂
米米くらぶ

だより

稲やかな三が日がすぎ、箱根駅伝の感激に浸るまもなく今年一年がスタートしました。

昨年の秋口からの景気の低迷、政局の混乱は先行きが見えず不安な思いを抱きつつのスタートとなってしまいました。だからといって個々に何かをするすべも無く、近くの神社の初詣で幸せが来る様に、ただただ祈るばかりです。とはいえ、今年もこうして里山新聞に投稿できる事に少しばかりの幸せを感じています。

さて、昨年の一年間を表す漢字は「変」という文字でしたが今年は「体」という漢字になるのでしょうか。ぜひとも「幸」とか「福」とかそんな文字になってほしいと願っています。

が、経済状況の好転にはかなりの期間がかかりそうなく、貧しさを覚悟する必要があるのかもしれない。戦後の経済成長によってもたらされた今の裕福さは、われわれの人としての成熟度がそれに追いついていないのではないのか？昨今の全く理解のできない凶悪な事件はそんなこと一因になっているのかもしれない。エコロジが叫ばれ、求められている今、「富よりも「幸」をかんじられる生活を送る」の中に見出す事が出来るのではないのかとおもうのだが。しかし何といっても健康である事が一番！皆さんと共に今年一年元気で過ごせることを願っています。寒さの折「自愛」ください。

べつべつ語

A「新年会もおわってけつよくござった。きはいつものメンバーだな」

B「しよーがねっぺ。これもひとつのみつなるコミュニケーション」

C「そんなかつこいいもじゃねっぺ。たんなるのんべのあつみみてーなもんだ。」

B「あなが、いいアイデアちや、ていげいこんなところからでんじやね」

A「まーそんなところでよとして、くーもんもねーなつてきたし、そろそろおわりにすっぺよ」

B「じゃーあつだけやあって、そーすんべ」って、新しい「升瓶の封を開ける、のんべいな3人組の新年会が終わったのは1時間と30分後だったのです。（戸沢里山通信員）

魚屋の戯言

鰯が美味しい季節になりました。

一年を通して美味しいう魚ですが、やはり冬の寒鰯に食えるでしょう。古くは主に関西方面で盛んに食べられていたこの魚も輸送手段の発達と共に今では関東でもすっかりおなじみになりました。千葉の市場に仕入れに行っても鰯をみない日は殆どありません。

戦国の武将が戦功を立てて出世する程に名前を変えたのに、鰯のついでに鰯を食ったのに似て、鰯も成長するに従ってその名前が変わっていく事を「存知」の方も多いでしょう。体長10センチ前後のワカシから始まってイナダ・ワラサ・ハマチ・ブリとなつていますが地方によって少しづつ違う事もあるようで、大きいものは体長百五十センチ、目方は十五キロくらいまで成長します。特にハマチは本来はブリになる一歩手前の魚を指していたものを、現在では養殖の鰯の事をこう呼ぶ事が多くなつています。

養殖の魚に抵抗をお持ちの方は多いと思います。確かに十一年程前まではとつてつけたような脂肪分の匂いが風味を損ねる場合もありましたが現在では養殖環境が劇的に変化し、餌も改良されているので身の締まりも天然魚にかなり近づいてきました。

鰯に近い魚にはヒラマサやカンパチなどがあり、英語圏ではどれもイエローテール（黄色い尾）と呼んでこれらの魚を個別に区別しています。このあたり日本人の魚に対する愛着と拘りが垣間見える気がします。

料理法は刺身を始めて炙り焼き・塩焼き・煮魚・ぶり大根等々と鰯を取って捨てる難いものばかり。薄切りにした鰯を鍋に張った昆布だしにさつとぐらべておろしポン酢で食べる鰯しゃぶもこれもまた絶品。

値段も大きめの切り身でも四〇〇円前後とそれほど高い魚でない事もあって、当店でも非常に人気のある魚です。もともとが美味しい魚、それぞれの家庭で独自の料理法を研究するのも楽しいものだと思います。真冬の食卓にとっても鰯の一品をとぞ。（鈴木里山通信員）

高龍神社節分祭

年男・年女のお願い

日本人は、古来季節の移り変わりの節目を大切にしてきました。

中でも、旧年から新年への移り変わりである立春は、最も重視される前日の三日に福を迎える為、豆をまき、邪気を祓うのです。

当社でも、一旦二日の午後六時と七時の二回、氏子の皆様の厄祓いと幸福をお祈りするべく節分祭（豆まき行事）を行います。

只今この豆まきに参加して頂く年男・年女を募集しています。

ご自身の厄祓いは是非当社の豆まきにご参加されてはいかがでしょうか。

今年迎える主な
年男・年女の皆様
大正十四年生まれ
昭和十二年生まれ
昭和二十四年生まれ
昭和三十六年生まれ
昭和四十八年生まれ
昭和六十年生まれ
平成九年生まれ

申込めは電話で（98）0472まで

厄祓いは
地元神社で

市原商工会議所
副会頭 根本 巍
市原商工会議所加茂支部
支部長 征矢 吉之助
役員一同

加茂の里心を愛する仲間たち

国本一心会

正式名称は「こもど一心会」といいます。国本町会の60代から70代のメンバーが主力で最高齢は84歳。地域の環境美化を自分達で出来ることは自分たちでやる」という心意気を活動しています。

これまで通路に水仙を植えたり、休耕田を借りて菖蒲園にしたりという活動を続けてきました。氏神様である浅間神社や町会会館の清掃も活動の一環としています。

また小湊鉄道の沿線に菜の花を咲かせる活動にも最初から参加しており、大久保駅と豊原駅駅受け持っています。春の黄色いじゅうたんを皆さんに見てもらえるのもこの活動の楽しみの一つです。

昨年は県道沿線の整備として長年放置されて荒れていた敷をきれいにしました。延べ100人以上の参加を得て、きれいになった道路脇の姿は活動の大きな成果と思っております。

特に堅苦しい規約もあえて作らず、活動もメンバーの発案で決めるという感じで「楽しく、気楽に参加」が会のスタイルです。誰かが、地域にとって「こうしたらいんじゃない？」と提案して「ヨッシャ、それやろう」という感じで。

活動の後で会員の心づくしの手料理を味わいながら談笑するの大きな楽しみで、その会話の中から次の活動のアイデアが出てきます。

拠点である産直の売り場はこしばら休止していますが、そろそろ再開という話も出ていますので、まだまだやることは湧いてきそうです。

（大泉里山通信員）

農家は産直のハウス

昨年、笠間と益子に行ったときに、岩間インターから笠間に向かう途中で気になる建物がありました。どうにも気になるので帰りに寄ってみました、JAの産直の店でした。しかし、気になったのはその建物で、新しい造りなのに何とも懐かしく、

加茂の里心を愛する仲間たち

国本一心会

正式名称は「こもど一心会」といいます。国本町会の60代から70代のメンバーが主力で最高齢は84歳。地域の環境美化を自分達で出来ることは自分たちでやる」という心意気を活動しています。

これまで通路に水仙を植えたり、休耕田を借りて菖蒲園にしたりという活動を続けてきました。氏神様である浅間神社や町会会館の清掃も活動の一環としています。

また小湊鉄道の沿線に菜の花を咲かせる活動にも最初から参加しており、大久保駅と豊原駅駅受け持っています。春の黄色いじゅうたんを皆さんに見てもらえるのもこの活動の楽しみの一つです。

昨年は県道沿線の整備として長年放置されて荒れていた敷をきれいにしました。延べ100人以上の参加を得て、きれいになった道路脇の姿は活動の大きな成果と思っております。

特に堅苦しい規約もあえて作らず、活動もメンバーの発案で決めるという感じで「楽しく、気楽に参加」が会のスタイルです。誰かが、地域にとって「こうしたらいんじゃない？」と提案して「ヨッシャ、それやろう」という感じで。

活動の後で会員の心づくしの手料理を味わいながら談笑するの大きな楽しみで、その会話の中から次の活動のアイデアが出てきます。

拠点である産直の売り場はこしばら休止していますが、そろそろ再開という話も出ていますので、まだまだやることは湧いてきそうです。

（大泉里山通信員）

農家は産直のハウス

昨年、笠間と益子に行ったときに、岩間インターから笠間に向かう途中で気になる建物がありました。どうにも気になるので帰りに寄ってみました、JAの産直の店でした。しかし、気になったのはその建物で、新しい造りなのに何とも懐かしく、

加茂の里心を愛する仲間たち

国本一心会

正式名称は「こもど一心会」といいます。国本町会の60代から70代のメンバーが主力で最高齢は84歳。地域の環境美化を自分達で出来ることは自分たちでやる」という心意気を活動しています。

これまで通路に水仙を植えたり、休耕田を借りて菖蒲園にしたりという活動を続けてきました。氏神様である浅間神社や町会会館の清掃も活動の一環としています。

また小湊鉄道の沿線に菜の花を咲かせる活動にも最初から参加しており、大久保駅と豊原駅駅受け持っています。春の黄色いじゅうたんを皆さんに見てもらえるのもこの活動の楽しみの一つです。

昨年は県道沿線の整備として長年放置されて荒れていた敷をきれいにしました。延べ100人以上の参加を得て、きれいになった道路脇の姿は活動の大きな成果と思っております。

特に堅苦しい規約もあえて作らず、活動もメンバーの発案で決めるという感じで「楽しく、気楽に参加」が会のスタイルです。誰かが、地域にとって「こうしたらいんじゃない？」と提案して「ヨッシャ、それやろう」という感じで。

活動の後で会員の心づくしの手料理を味わいながら談笑するの大きな楽しみで、その会話の中から次の活動のアイデアが出てきます。

拠点である産直の売り場はこしばら休止していますが、そろそろ再開という話も出ていますので、まだまだやることは湧いてきそうです。

（大泉里山通信員）

農家は産直のハウス

昨年、笠間と益子に行ったときに、岩間インターから笠間に向かう途中で気になる建物がありました。どうにも気になるので帰りに寄ってみました、JAの産直の店でした。しかし、気になったのはその建物で、新しい造りなのに何とも懐かしく、

小中一貫校現実に

月出小学校の廃校をきつ
かけに加茂地区内の各小学
校の少子化を心配してしま
った「小中一貫校」への取り
組みも、いよいよ現実のもの
として市教育委員会から
取り組み方針案（たたき台）
が示された。

案では開校を24年
度4月予定としており、
小学1年から中学3年
までの9年間の連続性
を生かした特色ある一
貫教育の内容、校舎、
遠距離通学者への対応
など、具体的に踏み込
んだものとなっている。

1月9日に議会への
説明を経て、1月上旬
から2月上旬を学校関
係者と地元への説明と
意見の聴取をする期間
とし、3月上旬には意
見の調整・反映を行い、
3月下旬までには基本
計画を取りまとめたこ
ろを考えた。



【校舎】
校舎は現在の加茂中学校を改修して対応することになっている。教室棟（3階建）の1階部分を図書室等の特別教室、2階部分を小生用

の普通教室として再配置し、3階部分を中学生用の普通教室として使用。これに合わせて外壁、階段、トイレ、教室内、廊下等の改修が予定されている。

【遠距離通学者への対応】
通学距離が小学生4km、中学生6km以上を送迎対象者とし、現在の加茂中のバスに加え、大型（55人）小型（25人）をそれぞれ1台ずつ増車して子供たちの送迎に充てる。

取り組み方針案（たたき台）は現在のPTA関係者や町会長を中心に説明されることになっている。1月上旬から2月上旬の短い期間に、いかに地元住民の意見や不安点を示せるかが大事になってくる。ここでの意見聴取が3月の基本計画に生かされ、24年に開校を予定される「新しいスタイルの学校」の骨格となるからだ。

「おらが村の学校」として伝統もあり、地域とのつながりも深い各小学校の良いところをどのように生かしていくのか。

小学1年から中学3年までの幅広い子供たちに、いじめや事故が無いように指導するのは当然として、他県での一貫校の成功例のような素晴らしい人間関係を構築するための教育内容や施設整備はどうなるのか。

通学バスが走ることによって小湊鉄道との共存はどうか。

この際、平三小も一緒にあれば、等々、地域の宝である子供たちのことだけに地域の大人たちが真剣に取り組み姿勢が求められているはずである。

「米百俵」の話を持ち出すまでもなく、何が子供たちにとって大切なのか、子供たちの教育環境を決めるのは大人の責任だと改めて認識していたとき、子供中心の議論が望ましい。

（大曾根里山通信員）

里山の医療から4

里山は秋から冬へ

昨年の秋、というよりも初冬のこの界限の紅葉は例年よりも遅くなり、しかも期間の短いものでした。家の山側の紅葉も鮮やかな色になったと思つたらすぐに葉を落とし始め、雨や風などであつて一気に冬景色へと転じてしまいました。十一月のはじめに木曽路を旅する機会がありました。木曽路はすべて山の中であり、谷間に川と街道が並行してよくあるところ

里山からの発信

いろいろな視点から考えてみました。また地域でその問題に一生懸命取り組んでいる人たちのことも紹介してきました。（もちろん取り組みは続いており、鶴舞地区町会の中に「鶴舞活性化ネットワーク病院部」が設置され、十一月十三日には、地域医療を守る住民集会が開かれました。主眼とするところは地域医療部門の拡充と救急部門の復活にあり、もっとも身近な住民の要望を満たすことにあります。活動の目的はあくまでも事態を動かし好転させることにあるので、要望書の提出もこういう集会もその過程に過ぎないと、濱屋部長は言っています。）

ところで、わかりやすい数字で見てみましょう。四七都道府県の中で千葉県は、人口一〇万人あたりの医師数で下から三番目、病床数で同じく下から三番目、一五才未満人口一〇万人あたりの小児科医師数で下から八番目、一五・四九才女子人口一〇万人あたりの産科、産婦人科医師数で下から六番目、工業生産において七番目、農業生産においては三番目（二〇〇六年度）に位置しています。そして、二〇〇六年度末処理欠損金額で多額の累積赤字を抱える自治体病院のワースト八番目に鶴舞の循環器病センターがランクされており、その額は二二〇億円にのぼります。

ついに壊れつつあった

こうして見てくると千葉県の医療体制というのは全国レベルでもかなり低い位置にあることがわかります。これはまた平均の数字なので、医療の都市部への集中を考えると、農山村部の数字はさらに低いものになります。高い生産力を持った県でありながら医療体制は低いまななのです。そして市立銚子病院内の閉鎖や市原市民病院の診療所への縮小、循環器病センターの内科の縮小など、状況は二〇〇六年度よりもさらに悪化していると考えられます。

問題は現場で起きている

「事件は現場で起きている」というのは踊る大捜査線の中の有名な台詞ですが、医療の問題も現場で起きている。病気がやがて病院に行く必要のあるのは個人で、国家ではないのです。その個人が行くことのできる病院がだんだん減り、一刻を争う緊急時に遠くまで運ばなければならないというのが、ここ加茂地区の私たち一人一人の置かれた現実です。ここがまさしく現場なのです。

税金をもっと医療費に向け、地域医療に目を配り、医師や看護士をもっと増やし、医師の負担を減らすに余裕を持つて患者を診ることができ、さらには何をしようという理想に近づけるために、私たちが何をしようというのを単純にして減らし、税収入を増やすというのが単純にして明快な説明でしょうが、どこを減らしてどこを上げるのかということが問題です。

今できること

現状の医療体制の中で今できることが一つあります。事前に市内の医療機関の状況を把握しておいて救急患者が発生したときに速やかに対応することです。市に消防局と連携した「救急救命情報センター」のような部門を設け、各医療機関のコミュニケーションの円滑化を図り、市内の医療機関の空きベッド数、当直の医師数、手術等の状況、受け入れ可能なかどうか、そういう様々な情報をオンラインで二元的に管理し、市内の全病院を一つの医療機関と考えると、救急の患者が発生したときに最短時間で適切な病院に搬送することができるとな指示を出せる体制を作ることです。議会の方にそういう動きがあることを聞きましたが、できるだけ速やかにそういう体制を作ってもらいたいと思います。患者が発生してから搬送先を探すのが今までであったなら、発生することを前提として準備をしておく、それならば今すぐにでもできることだと思います。医師の数を増やし、医療費にもっと税金を回し、崩壊しかけている病院を再建していくにはまだまだ時間がかかります。前にも述べたように一度壊れかけたシステムを回復させるには相当なエネルギーが必要です。それでも、必要である限りその方向に向けた努力も必要です。

駅に診療所を

その昔、国保市民病院が加茂病院といっていた頃、必要なところには訪問診療をしていました。あれは理想的ではなかったかと今にして思います。今も訪問診療をしている病院があります。その一つは長野県の佐久総合病院で、創立当初から今に至るまで六〇年あまり続いています。佐久総合病院以南の南佐久郡は過疎化が進んでいるものの、すべての村診療所に常勤の医師を派遣し、外來のほかには訪問診療も行っています。鉄道の小海線の駅舎内にも病院付属の診療所があります。「地方の過疎化が進む中、医療施設の充実、定住促進の大きな要因」と関係者も述べています。しかしこのどこよりも充実した訪問診療を行う佐久病院には国からの支援はなく、また若い研修医たちの質の変化などもあり、岐路に立たされているといえます。しかし、この在り方は一つのプランを提供して

読者様へ

加茂里山通信では、今年も読者の皆様へ感謝の意を込めて宝船プレゼントを実施いたします。今回も松・竹・梅の各「大当たり賞」3名とその他「お年玉賞」7名に加え、商工会議所加茂奉仕部からの協賛で1組「八万円」相当の「超目玉賞・福袋」が3名、計13名様に当たります。皆さん振るってご応募下さい。そしていろいろなご意見、ご要望をお聞かせ下さい。お待ちしています。ご希望の方は、住所、氏名、電話番号と里山通信への意見、ご感想を添えて「宝船希望」と明記してハガキで応募下さい。

宛先は 〒29000081 市原市五井中央西1-2-25市原商工会議所「加茂里山通信宝船プレゼント係」まで

べ切は2月6日（金）消印有効。当選の方は直接連絡いたします。賞品の引渡しは2月15日（日）午前10時、月崎の商工会議所加茂支部にて行います。取りに来られない方は無効になりますのでご了承下さい。

宝船プレゼント

加茂里山通信では、今年も読者の皆様へ感謝の意を込めて宝船プレゼントを実施いたします。今回も松・竹・梅の各「大当たり賞」3名とその他「お年玉賞」7名に加え、商工会議所加茂奉仕部からの協賛で1組「八万円」相当の「超目玉賞・福袋」が3名、計13名様に当たります。皆さん振るってご応募下さい。そしていろいろなご意見、ご要望をお聞かせ下さい。お待ちしています。ご希望の方は、住所、氏名、電話番号と里山通信への意見、ご感想を添えて「宝船希望」と明記してハガキで応募下さい。

宛先は 〒29000081 市原市五井中央西1-2-25市原商工会議所「加茂里山通信宝船プレゼント係」まで

べ切は2月6日（金）消印有効。当選の方は直接連絡いたします。賞品の引渡しは2月15日（日）午前10時、月崎の商工会議所加茂支部にて行います。取りに来られない方は無効になりますのでご了承下さい。

その家はフィンランドの幸福論から。

HONKA
Today's homes. Naturally.

ホンカ 検索

ホンカ房総 太陽工業株式会社
市原市馬立414-1 Tel 0436-95-5641
www.honka-bouso.com

ユートピア笠森

四季を感じる安らぎ空間

宿泊・宴会・グランドゴルフ・テニスとゆったりとやすらぎのときをお祝い・ご法事等の各プランも承っております
(15名様以上無料送迎いたします)

日帰り入浴もご利用出来ます

〒297-0154 千葉県長生郡長南町岩撫5番地
ご予約・お問合せ TEL 0475-46-2381 FAX 0475-46-2250
ホームページ http://www.utopia-kasamori.com

ケアマネジャーが答える

連絡先
電話：95-5641
ホンカ房総内
大曾根律子まで

受付時間
月曜～金曜
10時～15時
＊詳細は電話でご確認下さい

介護の悩み相談

「介護の事が良く解らない」「誰に聞いたらいいの?」
高齢化が進む加茂地区には切実な問題なのかもしれません。
今回、里山通信をご愛読いただいている皆さんからの特別相談をお受けします。

介護の入り口で戸惑っている方は気軽に連絡してみ下さい。
相談はケアマネジャーの有資格者がお受けします。

＊無料相談ですのでアドバイス程度となります。

（従夫里山通信員）

